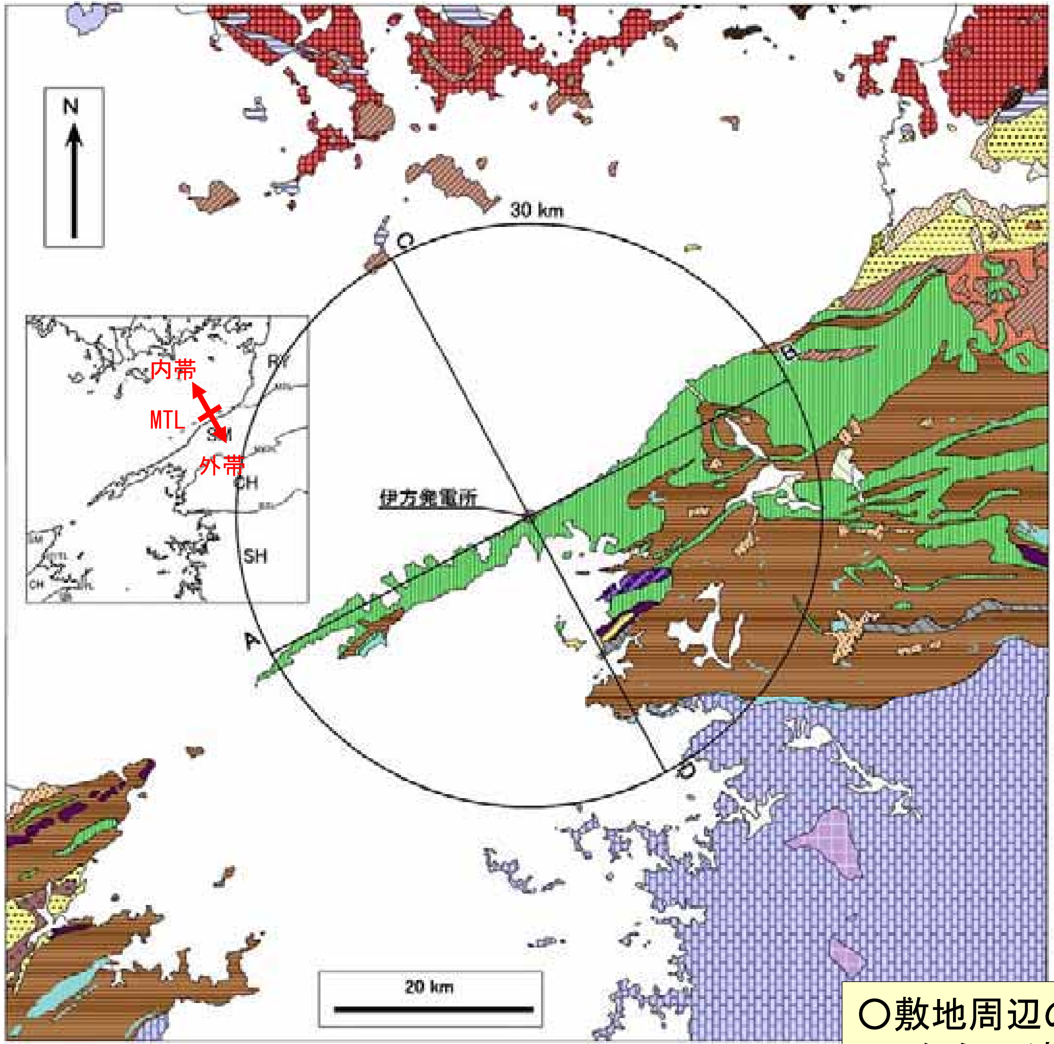
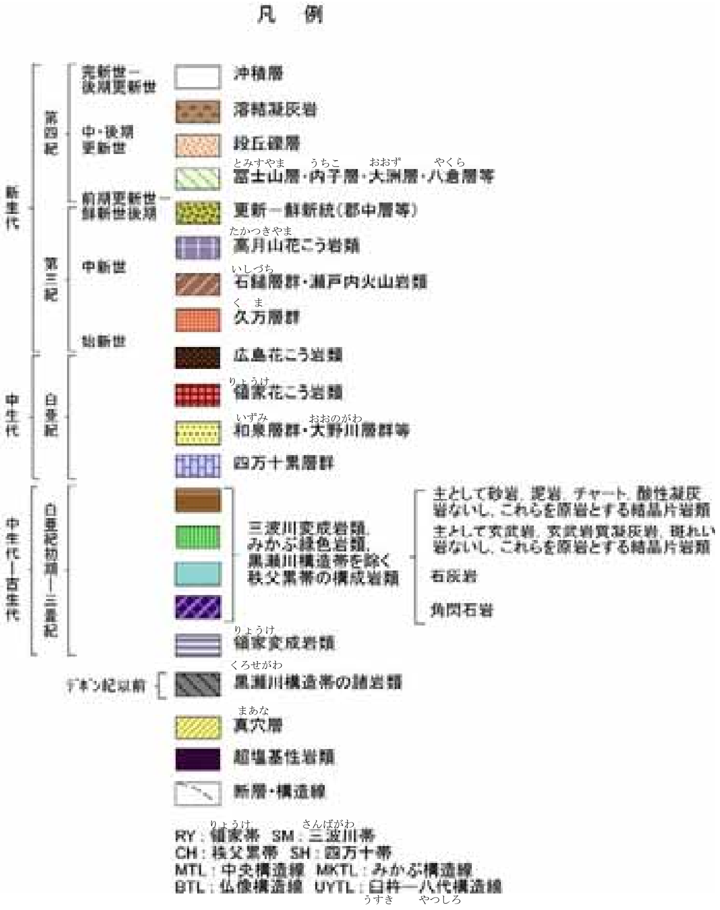
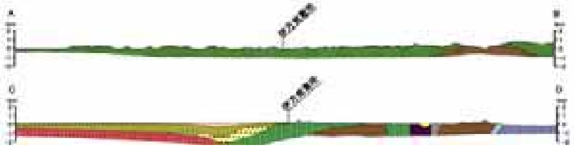
Ⅰ ２．敷地周辺の地質

Ⅰ ２．１ 敷地周辺の地質・地質構造

添付資料　図－２



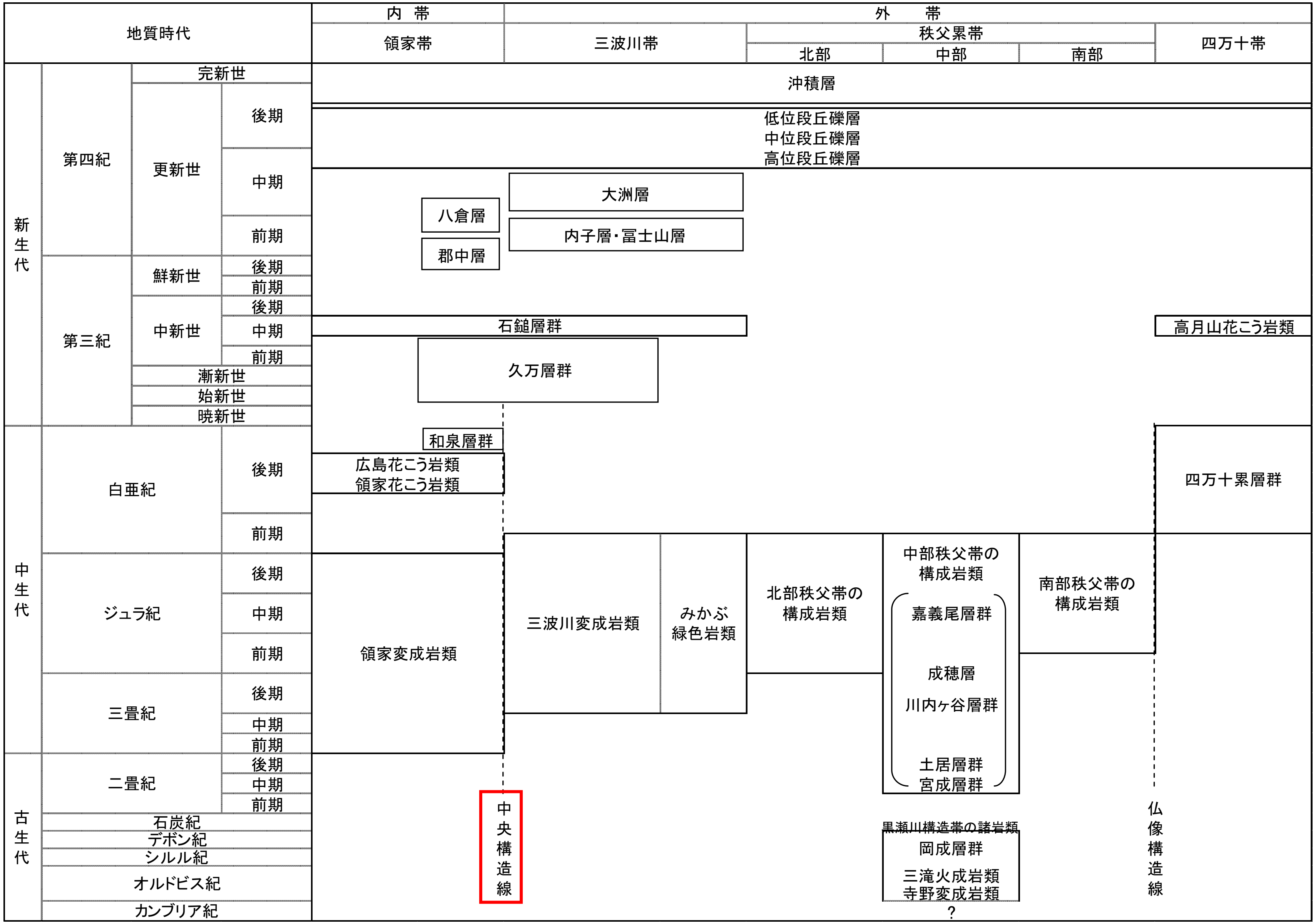




○敷地周辺の内帯には領家帯に属する地層，外帯には北から三波川帯，秩父累帯および四万十帯に属する地層が分布する。

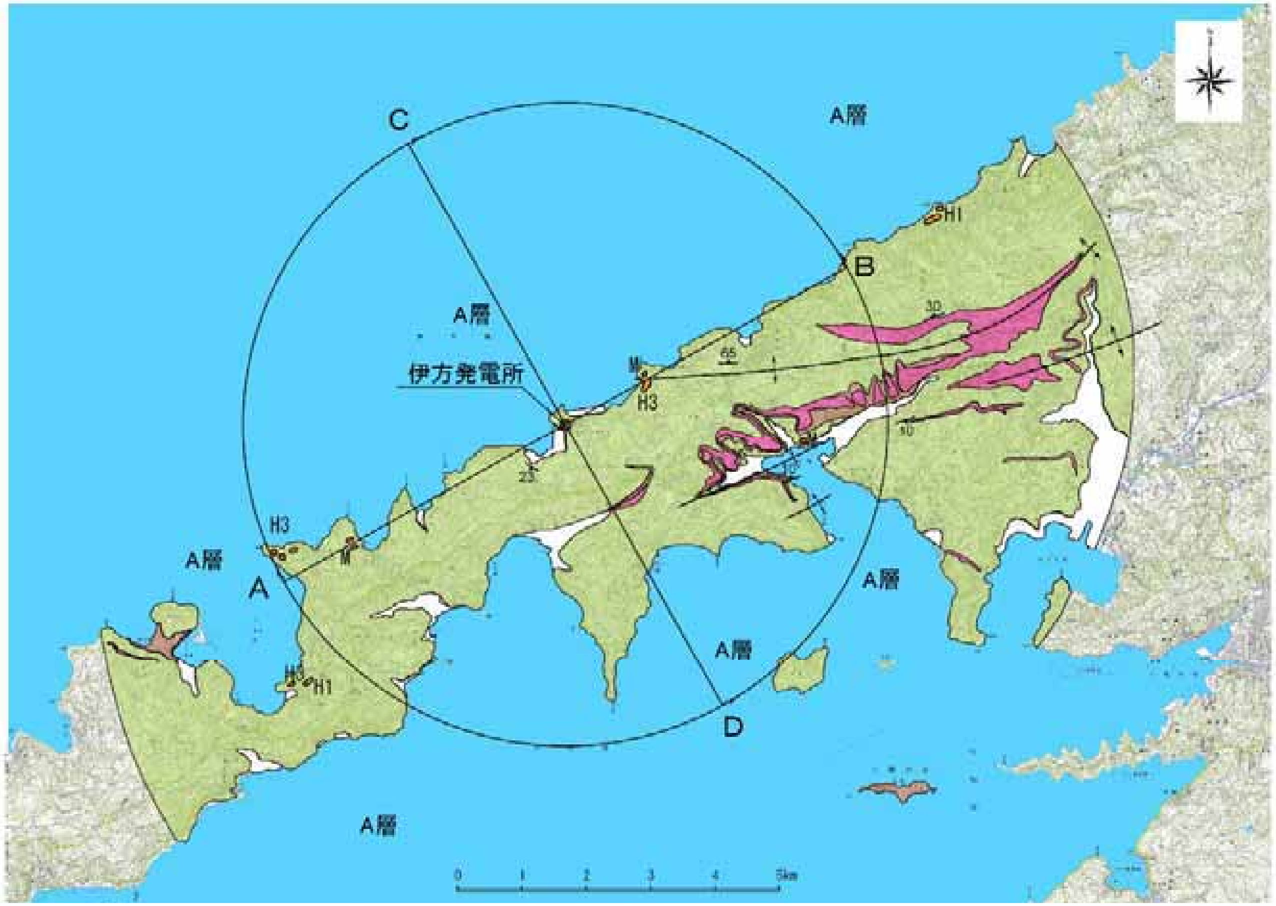
○敷地付近には三波川変成岩類が広く分布する。

Ⅰ 2．2 敷地周辺の地質層序



Ⅰ 2．3 敷地近傍の地質・地質構造

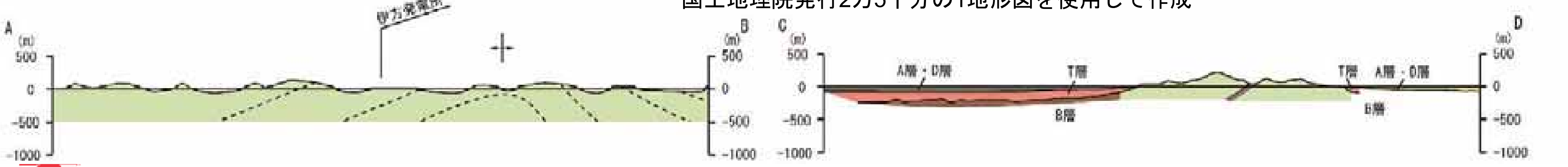
○敷地近傍には塩基性片岩が広く分布し，活断層を示唆する構造は認められない。



三波川変成岩類

敷地近傍には，「活断層詳細デジタルマップ」，「[新編]日本の活断層ー分布図と資料ー」，「活構造図，高知」といった既存文献による変位地形・リニアメントの指摘はない。

国土地理院発行2万5千分の1地形図を使用して作成



Ⅰ ３．敷地周辺のテクトニクス

Ⅰ 3．1　四国周辺の内陸地殻内地震のメカニズム解

〇データセット

防災科学技術研究所　広帯域地震観測網（F-net）より下記の条件にて作成

・期間　1997.1.1～2007.07.31

・範囲　北緯33°～34.5°　東経131.5°～135°

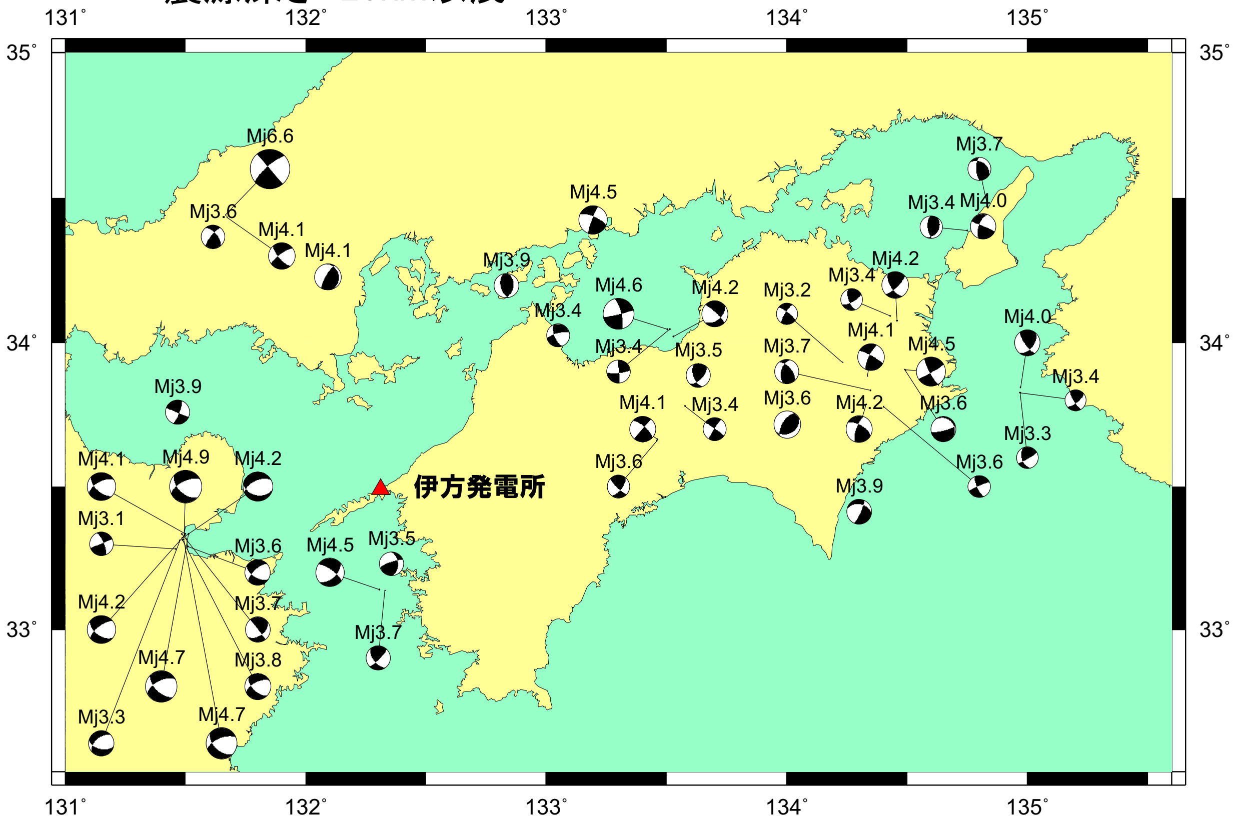
・震源深さ　20km以浅

46地震を抽出
（Mj3.1～6.6）

Mj3.0～4.0　26地震

Mj4.0～5.0　19地震

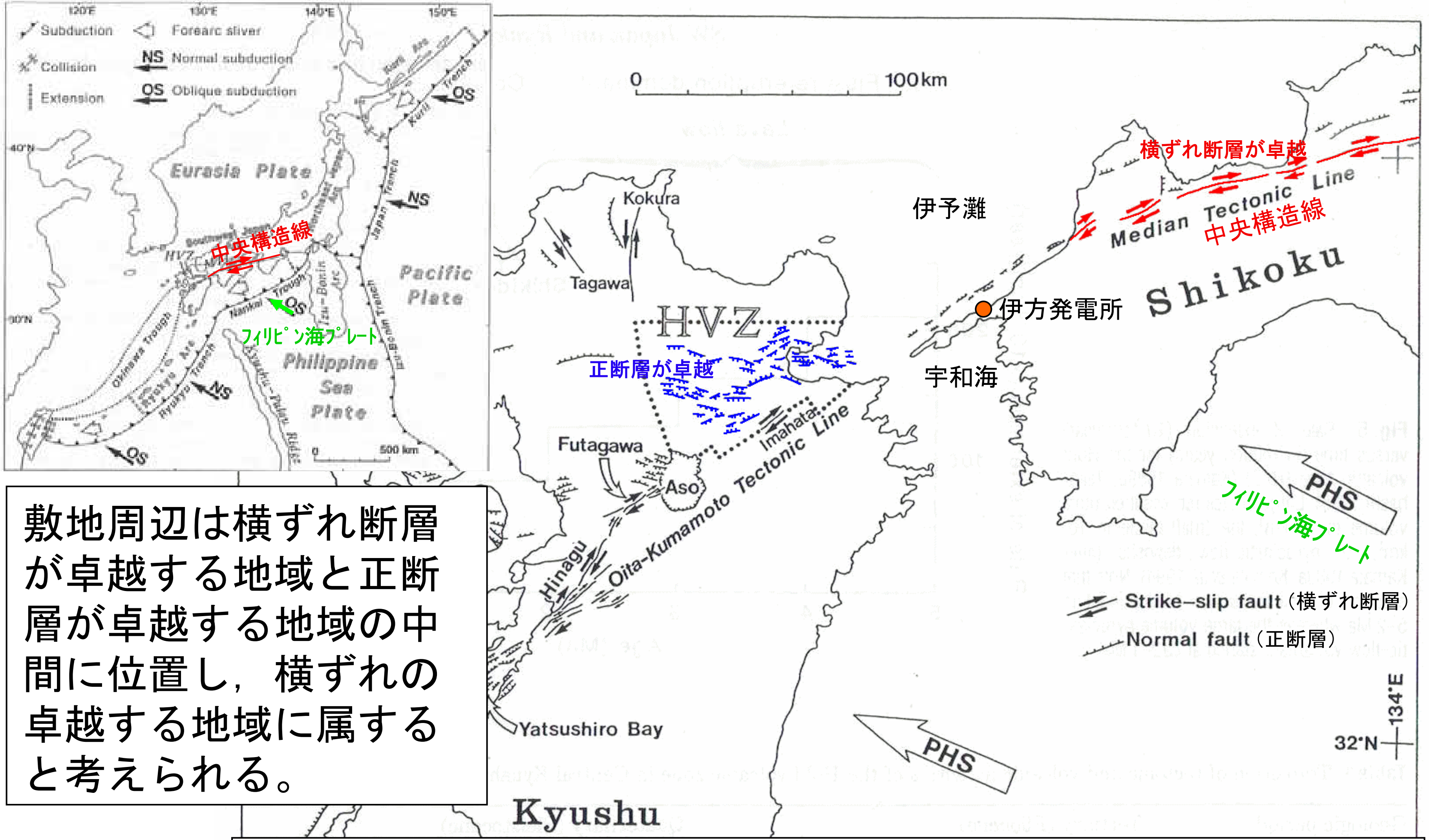
Mj5.0～　　1地震



四国中東部および中国地方における内陸地殻内地震には横ずれ型のメカニズムが多く見られ，主圧力軸の方向はほぼ東西方向と考えられる。敷地周辺では内陸地殻内地震がほとんど発生していないが，宇和海南方の内陸地殻内地震のメカニズムは横ずれ型である。

なお，大分県北部においては，ほとんどが正断層型の地震である。

Ⅰ 3. 2 敷地周辺のテクトニクスの概要

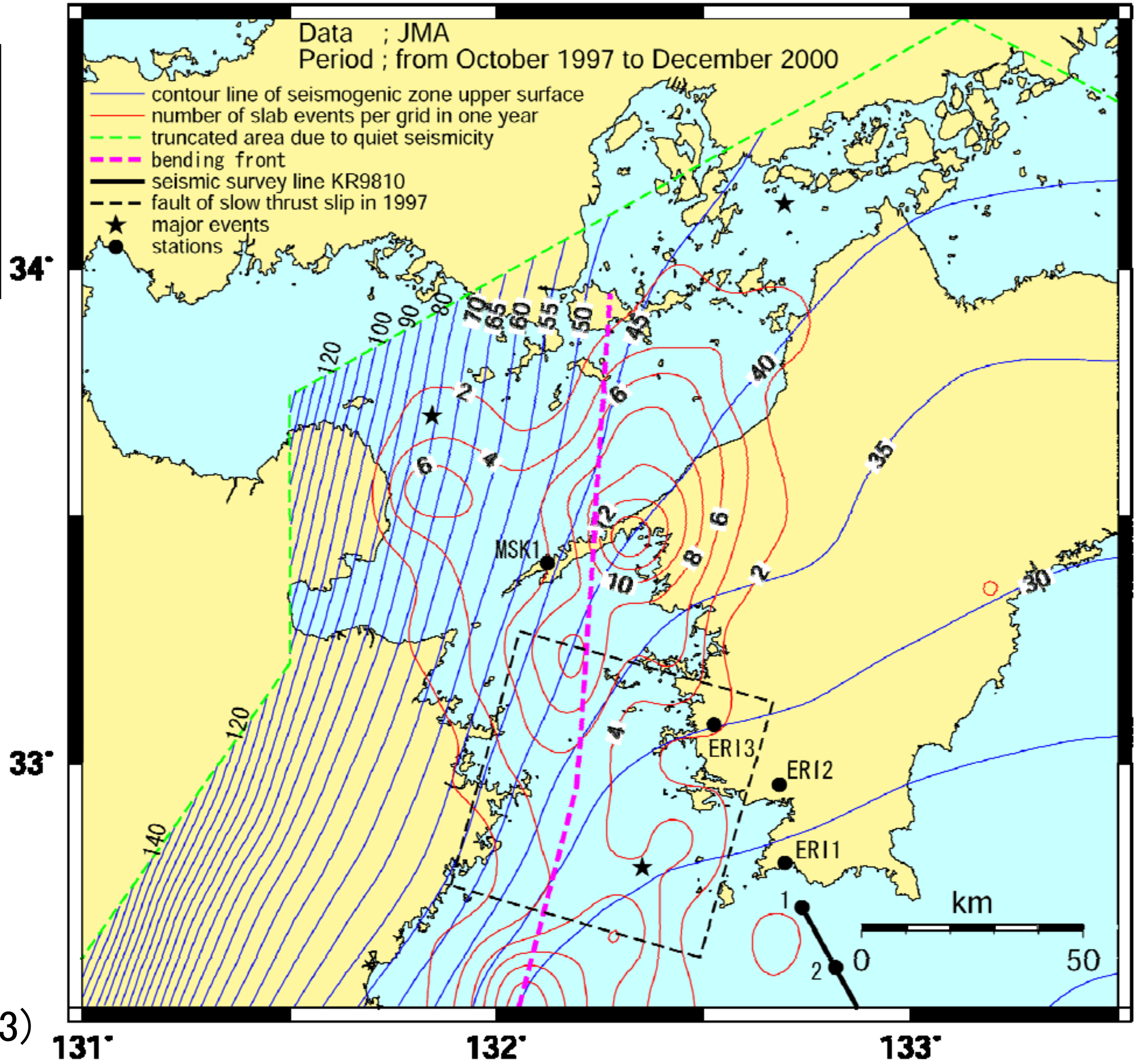


敷地周辺は横ずれ断層が卓越する地域と正断層が卓越する地域の中間に位置し，横ずれの卓越する地域に属すると考えられる。

『「Volcanic history and tectonics of the Southwest Japan Arc」Kamata, H and Kodama, K, The Island Arc, 8, 393-403, 1999』に加筆

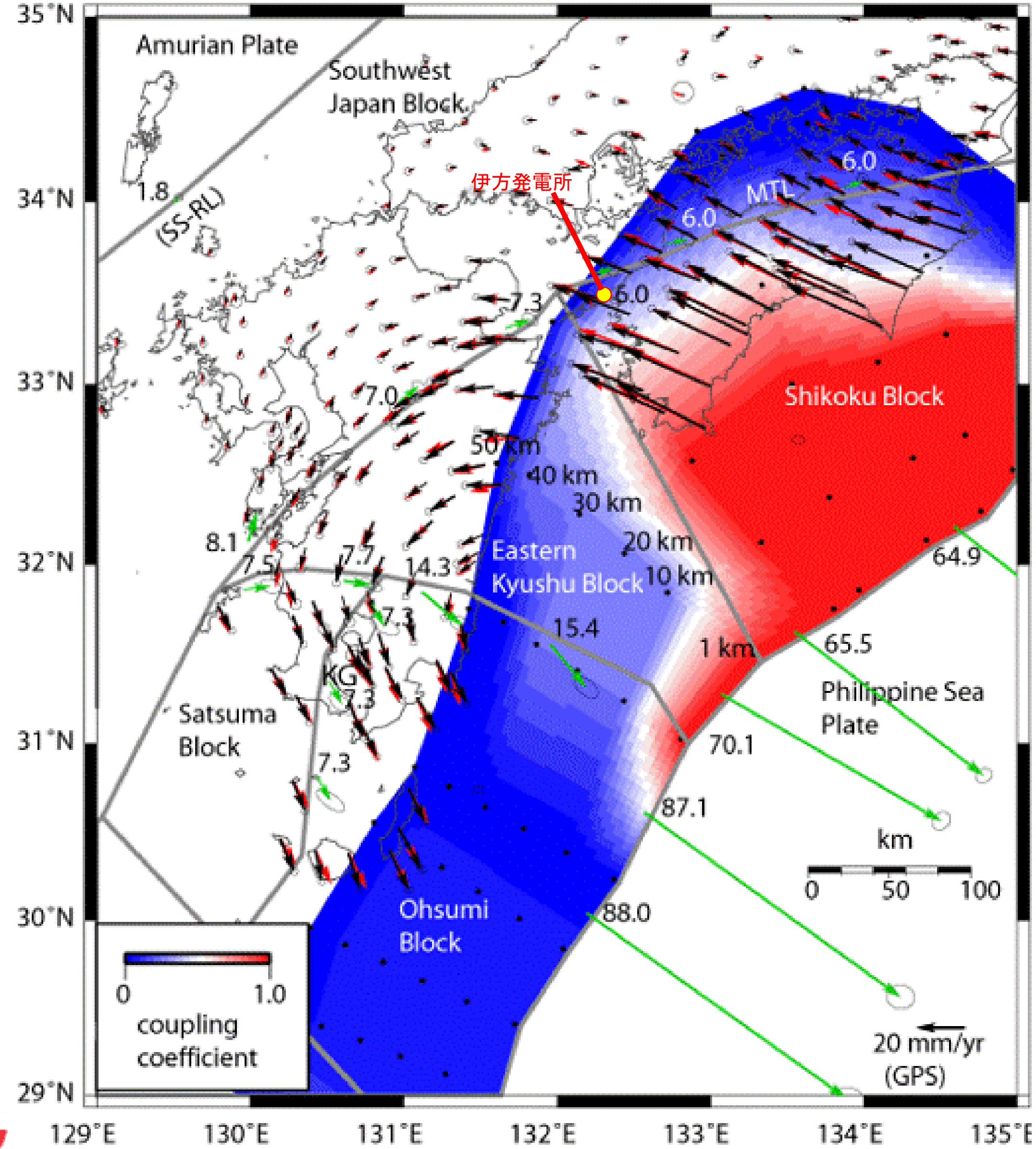
Ⅰ ３．３ 敷地周辺のフィリピン海プレート上面形状

潜り込むフィリピン海ﾌﾟﾚｰﾄ上面形状は，詳細には，四国側でENE-WSW走向であるのに対して，九州側ではNE-SW走向に変るなど湾曲している。



松崎ほか(2003)

Ⅰ 3．4 西南日本の地殻変動（Wallace，2009）



ＧＰＳ観測結果とフィッティングするモデルとして，四国と九州を区分するモデルが示されている。

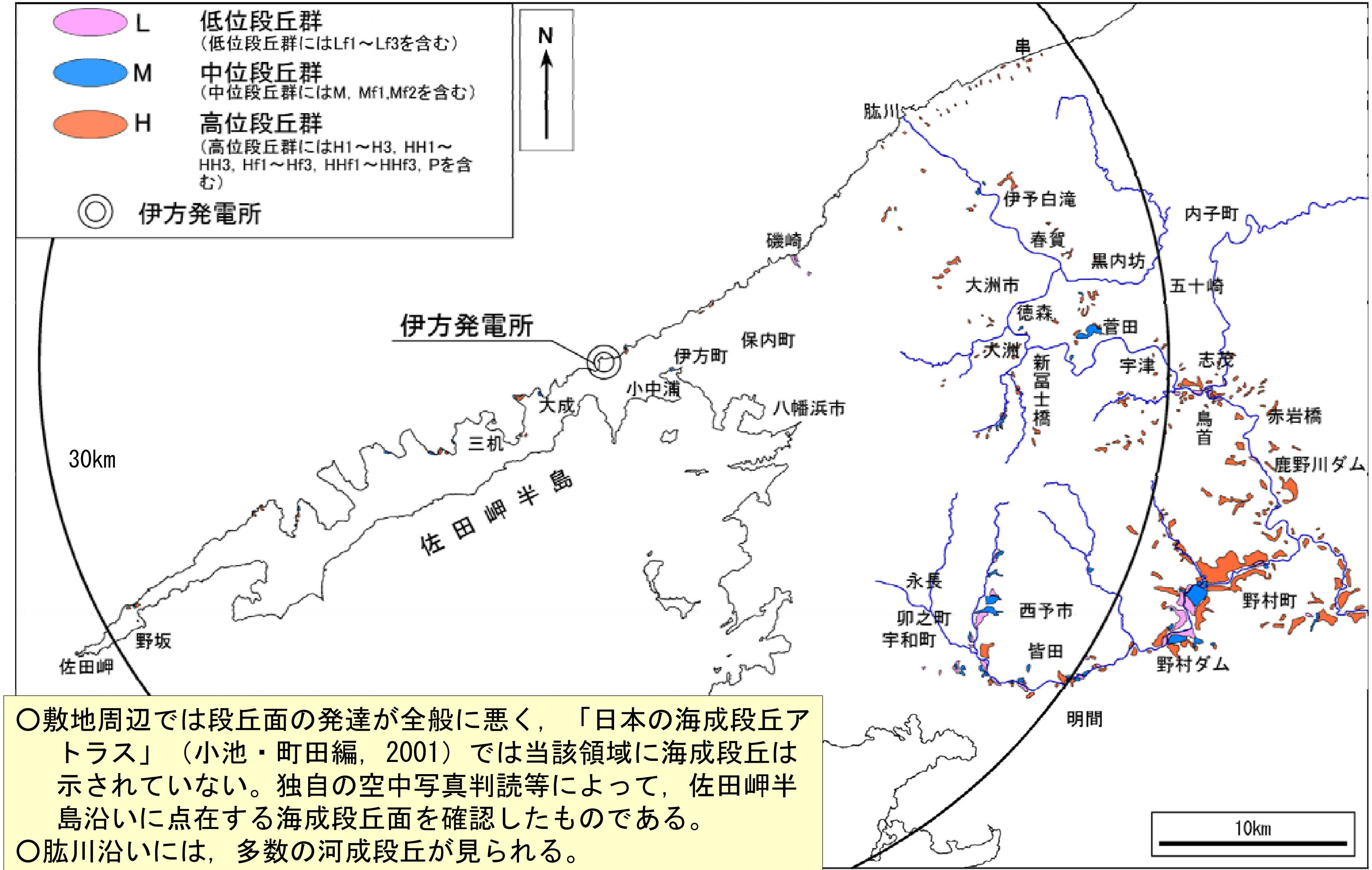
四国はフィリピン海プレートのカップリングの強いブロック，九州はカップリングが弱く反時計回りに回転するブロックとされている。

黒矢印：ユーラシアプレートに対するＧＰＳ速度
赤矢印：ブロックモデルに基づくＧＰＳ速度
緑矢印：ブロック間の相対的な動き

Ⅰ ４．敷地周辺の段丘

Ⅰ 4.1 敷地周辺の段丘面分布

添付資料　図－３



○敷地周辺では段丘面の発達が全般に悪く，「日本の海成段丘アトラス」（小池・町田編，2001）では当該領域に海成段丘は示されていない。独自の空中写真判読等によって，佐田岬半島沿いに点在する海成段丘面を確認したものである。

○肱川沿いには，多数の河成段丘が見られる。

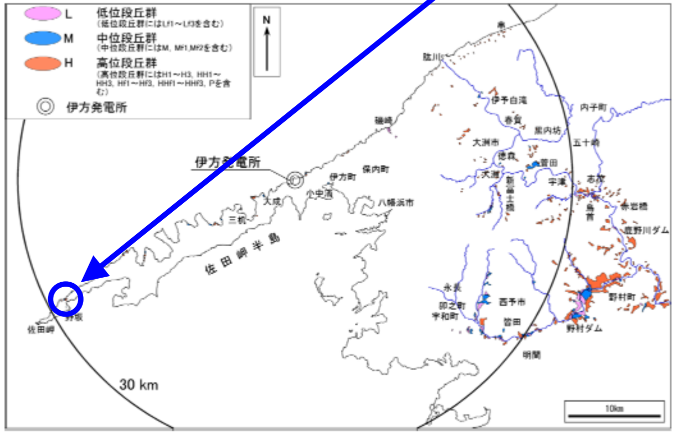
Ⅰ 4．2 敷地周辺の地質層序（第四系）

地質時代			瀬戸内海沿岸部		肱川流域				備考（年代指標）
			四国電力		四国電力		熊原※（1998）	山下ほか（2006）	
第四紀	完新世		沖積層	沖積低地	沖積層	沖積低地 A面	沖積層	沖積層	
	更新世	後期	低位段丘群	Lf3面	低位段丘群	Lf3面	L段丘	廿日市層	
				Lf2面		Lf2面			
				Lf1面		Lf1面			露頭調査
			中位段丘群	M面[1)]	中位段丘群	M面[1)–2)]			1)Aso-4火山灰(8.5-9万年前)被覆 2)K-Tz火山灰(約9.5万年前)被覆
		中期			中位段丘群	Mf1面[1)–2)] Mf2面[1)–2)]	M段丘	菅田層	
			高位段丘群	H3面	高位段丘群	H3面 Hf3面	H2段丘	古田層[3)–4)]	水野（1996） 3)Kkt火山灰(33-34万年前) 4)Ng-1火山灰(約30万年前)
				H2面		Hf2面			
				H1面		Hf1面[3)–4)]	H1段丘[3)–5)]		
				HH面群 （HH1-HH3）		HHf面群 （HHf1[5)]–HHf3）			5)0.39±0.13Ma火山灰 （浅野ほか，1992）
						P面 （大洲層[6)]）		大洲層[6)]	山下ほか（2006） 6)菖蒲火山灰（約60万年前）
		前期			冨士山層[7)]	内子層		冨士山層[7)]　内子層	山下ほか（2006） 7)ピンク火山灰(約100万年前)

※「日本の海成段丘アトラス」(2001)は熊原(1998)と同様

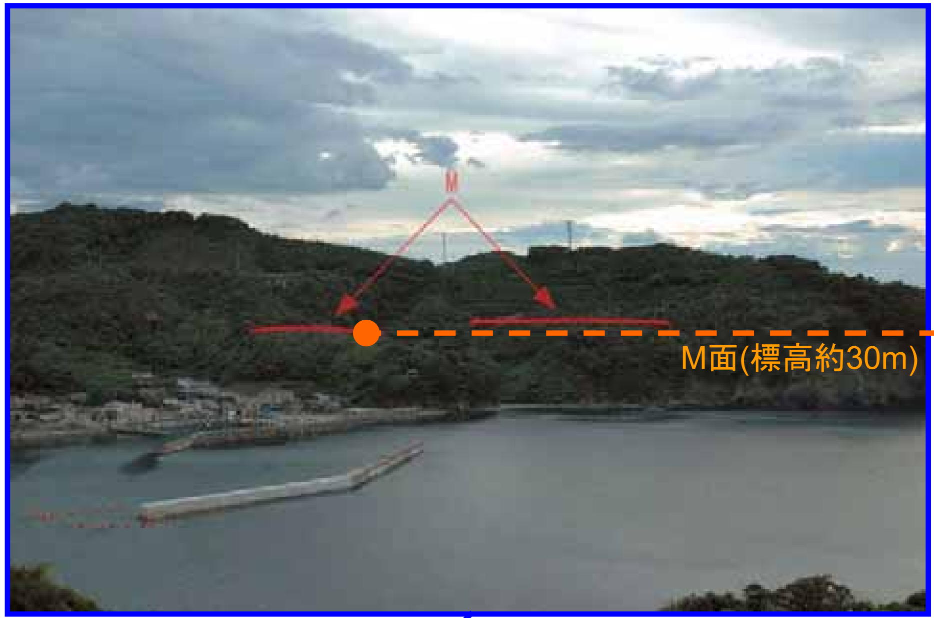
YONDEN

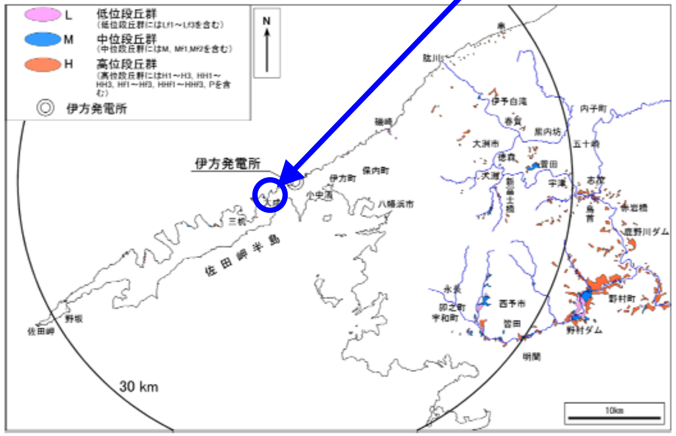
Ⅰ 4．3 M面の露頭（野坂）



○M段丘の礫層を覆う風成土にAso-4火山灰がわずかに混在する。

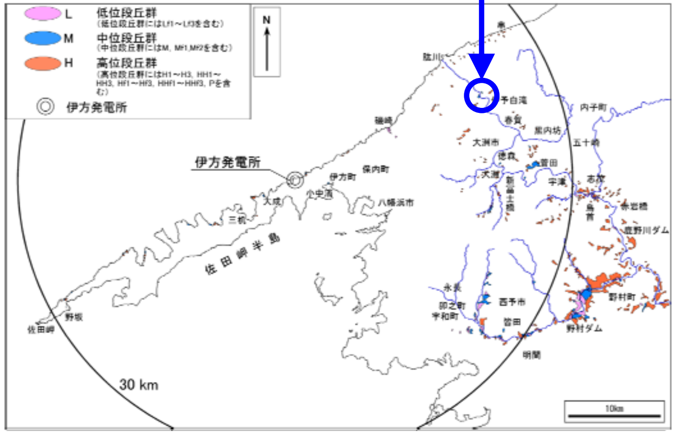
Ⅰ 4.4 M面の露頭(大成)





○M段丘の礫層を覆う風成土にAso-4火山灰がわずかに混在する。

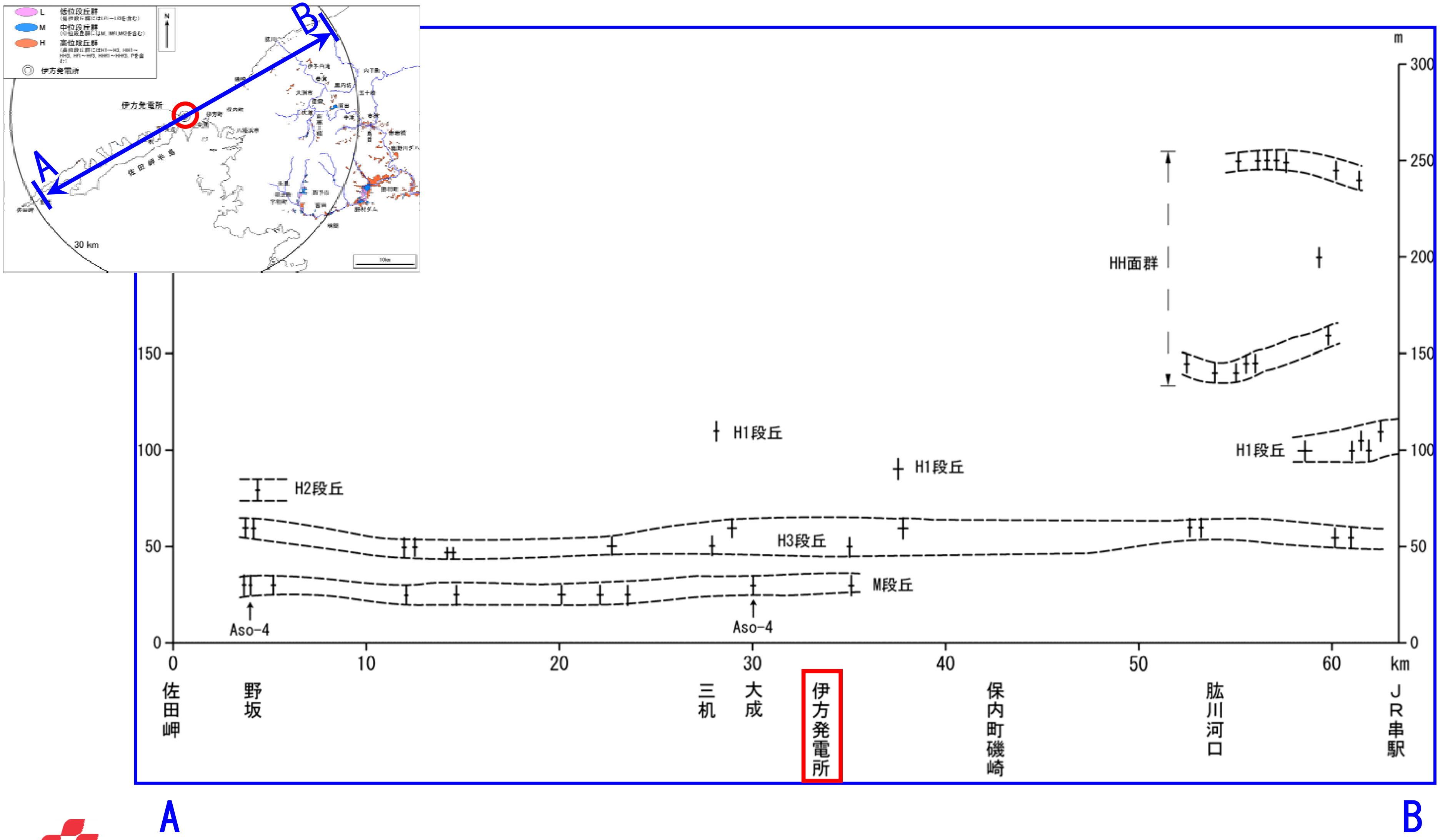
Ⅰ 4. 5 M面の露頭（伊予白滝）



〇M段丘の礫層を覆う風成土にAso-4火山灰がわずかに混在する。

Ⅰ 4.6 佐田岬半島沿いの段丘面高度

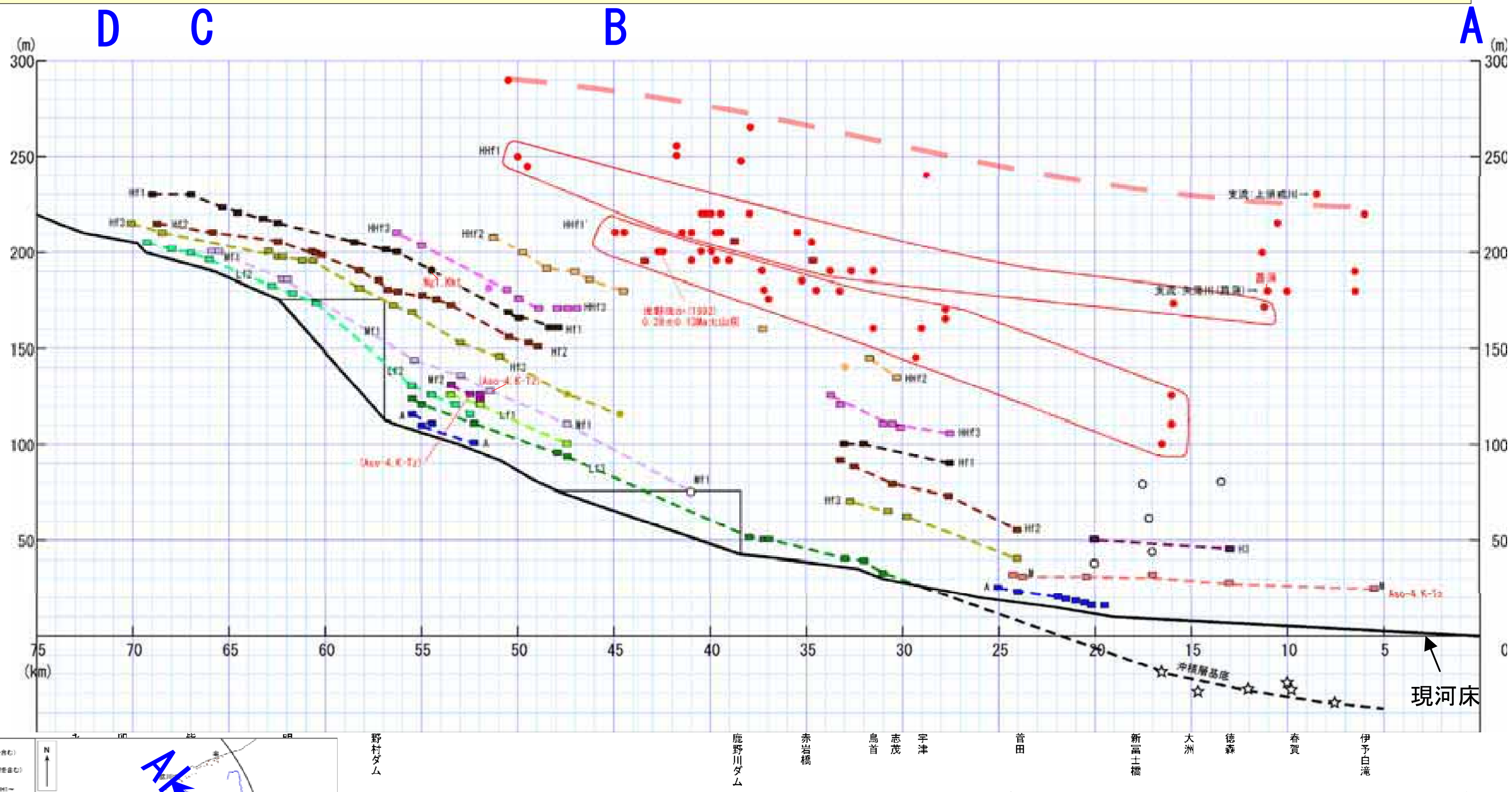
○伊予灘沿岸部の佐田岬半島に沿って配列する海成段丘面に急な高度差はみられない。

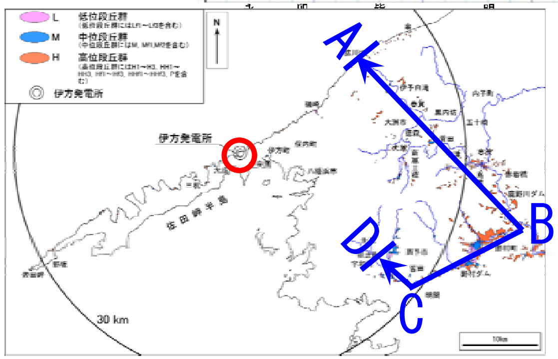


Ⅰ　4．7　肱川沿いの段丘面高度

添付資料　図－４

〇肱川沿いに配列する河成段丘面に急な高度差はみられない。

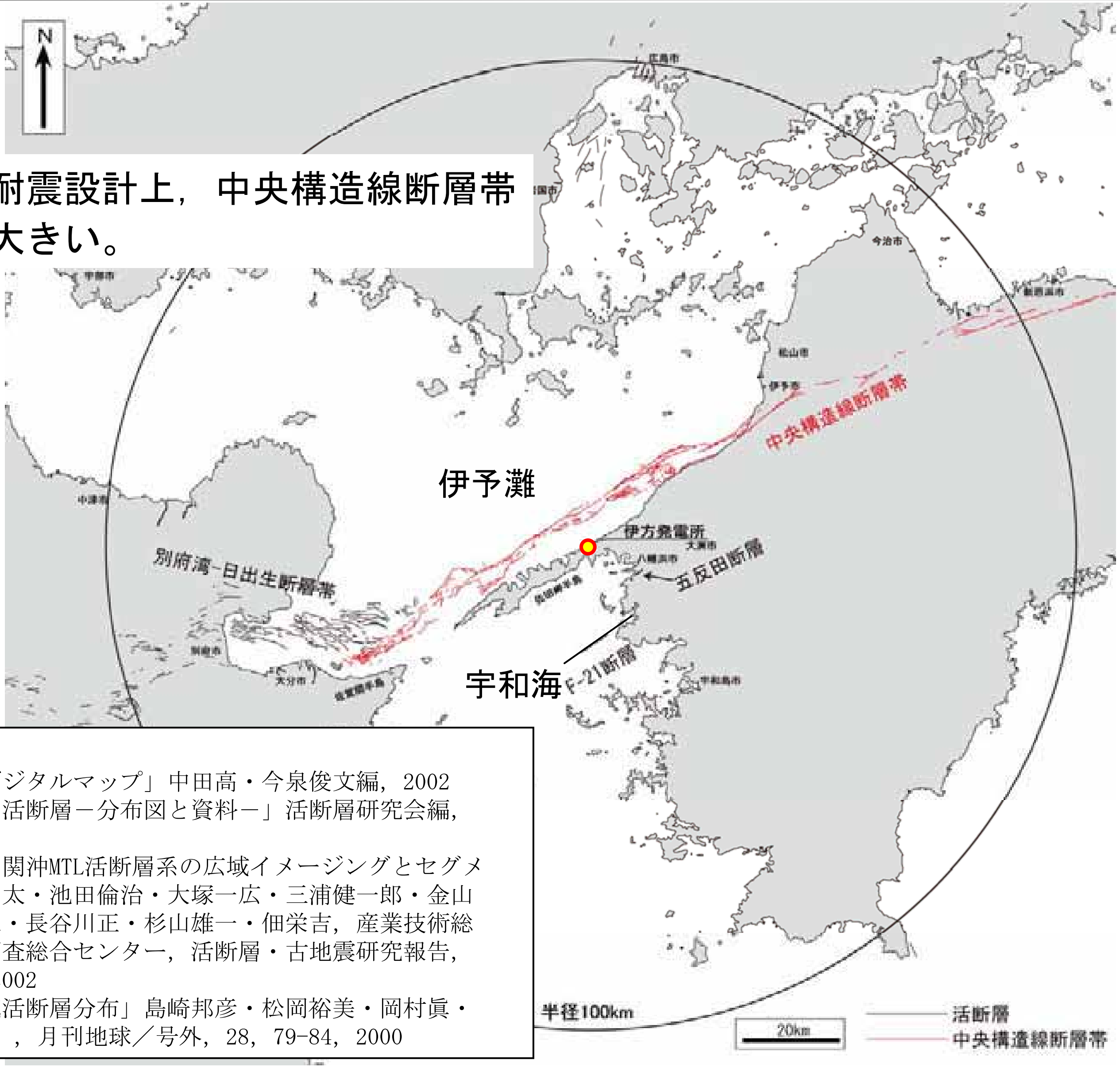




Ⅰ ５．敷地周辺の活断層

Ⅰ 5．1 敷地周辺の活断層分布

伊方発電所の耐震設計上，中央構造線断層帯の影響が最も大きい。



【活断層分布図の出典】
陸域：○「活断層詳細デジタルマップ」中田高・今泉俊文編，2002
海域：○「[新編]日本の活断層－分布図と資料－」活断層研究会編，1991
○「伊予灘～佐賀関沖MTL活断層系の広域イメージングとセグメント区分」七山太・池田倫治・大塚一広・三浦健一郎・金山清一・小林修二・長谷川正・杉山雄一・佃栄吉，産業技術総合研究所地質調査総合センター，活断層・古地震研究報告，2，141-152， 2002
○「別府湾の海底活断層分布」島崎邦彦・松岡裕美・岡村眞・千田昇・中田高 ，月刊地球／号外，28，79-84，2000